

御国の称賛をうける者！！ゆく年来る年カンファレンス 「キリストの弟子の条件と約束」

ルカ 14：25-35

約束

神様は旧約時代に約束をして、新約時代にその約束を果たされました。聖書は、神様から私たちに約束の手紙です。もしあなたがわたしに従うなら、わたしはあなたを愛し祝福する、わたしはあなたの父なのだという約束が書かれています。

では、神様とあなたがした約束は、いったい何だったのでしょうか。一つか二つかそんなに多くないと思います。どんな約束だったか思い出すには、静まり考え、神様に聞きましょう。主がなそうとされている来年の計画・将来の計画を見失わないために、主がなそうとされている喜びを掴んで、あなたが神様とした約束は何だったのかを考えていのです。

行く年来る年カンファレンス

クリスチャンとは、キリスト者という意味ですが、昔の時代と言うと弟子のことになります。人には、空気、水、塩が必要です。そしてそれらを統制する光が必要です。教会は光の役割があります。暗闇を照らす光という、神様と地域を繋ぐ架け橋として、このお正月も餅を作り売りイベントを行いました。地域の年配の方と一緒に始め長年してきた餅作りは若者にも受け継がれ、みんなが一致して喜んで達人なみに大量の良い餅を作ることができました。餅はとても評判で、地域の方も毎年とても喜んでくださり、地域との距離が縮まり、教会は闇ではないかという偏見がなくなっていっていると思います。喜びの恵を流すことができました。先日のゴスペルコンサートなども合わせてのみなさんの働きに弟子の姿を感じます。

キリストの弟子の条件と約束

あなたはなぜイエス様を信じてついて行くかと決断し約束をしたか、もう一度考えましょう。私たちのところまで光が届いたのは、命がけて繋いでくれたイエスキリストがいたからです。自分の父、母、妻、子、兄妹、姉妹、自分の命までも捨ててイエスキリストに従った弟子たちがいたからです。中国で迫害を受けた宣教師が、諦めずに岡山へ来たので、高度医療の知恵と福音が伝わりました。父母を敬い家族を大事にするが、神様と結んだ約束はこれを上回るほど大事だということです。あなたに流された愛を本来の目的を果たしながら流して生きて行く時に、もし家族が弊害になりやめなければならなくなった時は、あなたはそれを憎むような思いでそこへ置いてでもイエスキリストを選ぶことができるでしょうか？十字架刑は、自分の主張のためにローマ帝国に謀叛を起こしたとみなされた罪人が辱めを受ける刑でした。家族にまで辱めを与えるような出来事、国家から村八分にされ恥をさらすような出来事があっても、わたしに着いてくる者は、甘んじて受ける決断をしなさいと言われていました。

座って考える

塔を築こうとする時、まず座って完成に十分な金があるか、費用を計算しない者がいるでしょうか？もし計算しないと、土台を据えただけで完成できず嘲られ、「建て始めたのに完成できなかった」と言われます。全てを捨てて神様に着いて行くかと決断したのなら、途中でやめてしまって逃げ出すようなことはいけません。またどんな王でも戦う時には、二万人を引き連れて向かってくる敵を一万で迎え打つことができるかどうかを、まず座って考えます。私たちの霊的戦いは、二万人と戦うようなものです。もし見込みがなければ使者を送って講和を求めなさい、ということを行っているのではなく、二万人と負けるような戦いをすると言われていたのです。約束を果たすことは、わたしたちの人生にとって大切なことです。その約束が果たせるように、二万人の敵がいるならこっちは四万人にすればいいじゃないか、家を建てるのにお金があるならそのためのお金を貯めればいいじゃないか、と座って考え、経済的な問題や大きい敵（問題）が訪れた時も諦めずに逃げないでください。

約束を思い出す

まず座ってゆっくり考えて、イエス様とどんな約束をしたのか思い出しましょう。手塚治虫の雨降り小僧の話のように、前に約束して忘れていることがないか、わたしはこうやると決めたのに約束を破ってることはないか、今年最後に思い出しましょう。

思い出して来年を迎えないと、来年も同じことになってしまいます。あなたはイエス様に興味本意で野次馬で着いて行く群衆ですか？それともクリスチャン・弟子ですか？イエス様に出会い問題が解決して取り去られた時、人生をかけて着いて行く、と約束したのではなかったですか。イエスが捕まったとき、死んでもイエス様に着いて行くと弟子たちは言っていたが、みんな忘れて逃げました。でも弟子たちは殺されると思ったけど、思い返し戻りました。私たちは、弟子としてクリスチャンとしてイエス様に着いて行きますと約束しました。でもいつのまにか、群衆に戻っているかもしれません。

財産

あるイギリスの大金持ちの伯爵が、愛する息子のためにたくさんの財産を貯めました。しかしこの息子は16歳で亡くなってしまい、何のために生きて来たのかと目標を失った父は、若い絵描きたちに息子の肖像画を描かせて支援していきました。伯爵が亡くなった後、物置きにしまわれたままのその肖像画をオークションにかけてくれという遺言通り、弁護士は実施しました。最初いちばん無名の画家の肖像画がオークションに出され、無名の絵なので誰も買わず流れてしまいそうになったとき、一人の老人が入って来て涙を流して買いました。老人にとっては、とても高額だったが買いました。老人は伯爵家で子どもの世話をしていた侍従長でした。しもべだったけど、家族を愛し仕えた忠実なしもべでした。主人といっしょに悲しむ人でした。奴隷制度で入れない会場だったが、主人の恩恵で社会的地位を得て入札会場に入ってこれました。落札されたとき、まだ何百展もあったが司会は「今日のオークションはもう終わり」と言いました。遺言に、「いちばん無名のこの絵を買った人に、わたしの全ての財産を与える。欲のないその人に全てを与える。」と書かれていたからです。侍従長は絵を得るために、自分の持ち物を全て売って、愛する主人の絵を買って求めた。しかし彼の受けた祝福はこの地において2倍どころではありませんでした。失ったものより多くのものを得ました。欲を捨て神のために生きる人がどんなに美しいか、先人の歩みから知っています。しかし私たちの心にはまだ自らを得ようとする欲が出てきます。自らを得ようとする者はそれを失い、それを捨てる者はそれを得るのです。聖書は吐き出さないと受け取れない恵が隠れています。しかしもし信じて種を蒔き続けて待つなら、蒔いた以上の、犠牲を払った以上の祝福を得るんだ、と聖書は約束していることを忘れてはいけません。アブラハムは、イサクを捨てたのでイサクを得たのです。それで信仰の父と呼ばれるようになりました。得ようとしているうちは得られせん。

さいごに

みなさんは日々たくさんの犠牲を払って神様に着いて行っています。その犠牲が無駄ではないことを知ってください。あなたが塩気をなくさなければ、多くの神の栄光を人々に与えることのできるキリストの弟子となります。イエスキリストに着いて行こうとする時、必ず辱めを受けます。神様のために命をかけようとする時、本当に心傷む出来事が起こります。なぜそんなことが起こるのだろうか、裏切られたような気持ちになります。しかしあなたは赦す力を知っています。

イエスキリストは十字架上で、人々から裏切られ罵られ、天の父からも無視されました。そのイエスの光を得た私たちは耐える力をもっています。右の頬を打たれても左の頬を差し出すことができるのです。あなたがその人を抱きしめる時が来ることを知っているからです。イエスキリストが自分に剣で向かって来る人を抱きしめて耳を癒したのは、この人がイエスを愛する時が来ることを知っていたからです。イエスは裏切られても裏切らないのです。だから私たちがイエス様といっしょにそれができます。信じる大丈夫だから、と神は必ず御手をもって応えてくださる方です。してはならないことは、私たちがその神の計画を邪魔することです。

あなたが神様にした約束を思い起こし、忘れていたら思い出してください。神様は息子であるあなたのことを待っています

(要約者:高橋 奈津江)

(2023年12月31日)